

Murata 口腔湿潤計ムーカス®

口から現代人の
健康を支えていく。



管理医療機器 (クラス II)
一般名称: 体成分分析装置
販売名: Murata 口腔湿潤計ムーカス
医療機器承認番号: 30400BZX00014000

「ムーカス®」は株式会社ライフの登録商標です。



製造販売業者

株式会社 村田製作所

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい4丁目3-8

<https://medical.murata.com/>

販売業者

株式会社 ジェイ・エム・エス

〒105-0023 東京都港区芝浦1-2-1

<https://www.jms.cc/>

お問い合わせ先 カスタマーサポートセンター ☎0120-923-107

表紙について

1924(大正13)年より、市民の足として愛されている熊本市電。
レトロ車両から最新モデルまで、さまざまな車両と出会うのも楽しみのひとつ。
奥に臨む熊本城はまだまだ復興工事中だが、未来に向けての希望を感じられる光景といえる。
企画・編集: 株式会社都恋堂 デザイン: 株式会社ラジアン 印刷: TOPPAN株式会社

Web版「siesta」もお楽しみください!
本誌で紹介できなかった情報も公開中!



医療現場にやすらぎとつながりを

2026

Vol.117

SUMMER

Renewal

siesta

Webからでも
ご覧になれます



今号から
siestaが
リニューアルしました



Doctor's Story

嶋田 英敬

医療法人社団 如水会 理事長

Close up! まち散歩

熊本県熊本市

Facility Spotlight

東京慈恵会医科大学西部医療センター

Medical Works

蓮沼 潤 麻酔部〈医師〉 / 行川 洋平 薬剤部〈薬剤師〉

A Moment with Books / 旬食だより / Faces of JMS

Doctor's Story

— ドクターの横顔 —

相手のことを理解しようとする姿勢、力。

それが時代を超えて

大事なことだと思います。

熊本で腎臓・透析医療を専門とする医療法人社団 如水会は、
2024年に設立50周年を迎えた。

祖父が礎を築き、父が育て上げた嶋田病院を地盤に、
現在は嶋田病院・嘉島クリニックの2施設を擁し、
地域医療を支えている。

高品質な透析医療の追求と、地域に根ざした
予防医学・災害医療への取り組みを両輪に、
今まさに新たな50年に向けて歩みを進める如水会。
理事長の嶋田英敬先生に話を聞いた。

嶋田 英敬 (しまだ ひでたか)

医療法人社団 如水会 理事長

1968年熊本県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業後、熊本大学病院へ入局。熊本赤十字病院・済生会熊本病院での研修を経て、2000年に嶋田病院副院長に就任。2007年より理事長を務める。祖父の代から続く医師の家系に生まれ、腎臓内科・透析・痛風治療の専門医として地域医療を牽引してきた。熊本県透析施設協議会会長も務め、災害時情報ネットワークの整備にも尽力。

【専門】内科、透析、痛風

【資格】日本内科学会内科認定医、日本透析医学会専門医、日本感染症学会ICD認定医、日本痛風・尿酸核学会 認定痛風医、日本透析医会 理事・災害時透析医療対策委員、日本腎代替療法医療専門職推進協会 専門指導士



医師の使命感は、 亡くなった患者さんとの絆が教えてくれた

嶋田英敬先生の原点は、三代にわたる医師の家系にある。祖父は軍医として太平洋戦争に従軍し、父が嶋田病院を創設して、透析医療に本格的に取り組み始めた。嶋田先生も幼い頃から父のもとへ週3回透析に通ってくる患者さんたちの姿を見るのが日常だった。「患者さんたちが父を深く信頼して、自分の身体を預けてくださっている姿を間近に見ていました。これを自分が引き継いでいくのだ、という使命感が自然と芽生えていったように思います」と話す。医師への道は、あらかじめ定められた運命のようでもあり、同時に、自ら選び取った決意でもあった。

東京慈恵会医科大学を卒業後、熊本大学病院へ入局。済生会熊本病院などでの研修を経て透析医療に携わるようになり、2000年に副院長として嶋田病院へ着任。2007年からは理事長を務め、現在に至る。

学生時代は弓道に打ち込んだ。精神統一を要するその競技は、現在の先生の姿勢とどこか重なる。慈恵医大の建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」は、学生時代に深く刷り込まれたという。「自然とそういうふうになっているのかもしれませんが」と苦笑いしながら語る言葉に、医師としての信念が滲む。

先生の医師としての価値観を根底から揺さぶったエピソードがある。透析治療を長く続けていた患者さんが亡くなられた時のこと。ご家族はわざわざご搬送の車を遠回りさせて、病院の前を通ってご挨拶されたという。「長く透析でお世話になったから、ここが第二の我が家みたいに思っていました」という一言が、今も胸に刻まれています——、先生はそう話す。「1回1回の透析を疎かにするな、という言葉スタッフに折に触れて伝えているのは、あのときのエピソードがあるからです」

「完璧と思った瞬間が始まり」 熊本から全国へ、次の50年へ

如水会の透析医療の質の高さは、数字にも表れている。粗死亡率は、全国平均の2～3分の1で推移していた。この成果を支えるのが、「病院機能評価」と「ISO 9001」という「静と動」の2つの認証取得だ。「病院機能評価は現時点の水準を評価するもの、ISOはシステムとして継続的にアップデートできる体制にあるかを見るもの。両方取得することに意味があると考えています」

先生が大切にしている哲学に「完璧と思った瞬間が始まりである」という考えがある。完璧であれば次の創造や改善の余地はない。現状に満足せず、常に次の高みを目指すことが、医療の質を向上させる原動力になると信じているのだ。今年度の如水会のスローガンに掲げた「『ここでしか』を全員で」も、その精神の延長線上にある。「個々のスタッフの技術や人間力を繋ぎ合わせ、ITやAIには代替できない人間ならではの価値を生み出したい」と話す。

新たな挑戦も続く。院内にSEを迎え入れて医療DXを推進し、隣接地にメディカルフィットネス施設 FABa pro. をオープンした。先生自身も週1～2回通い、患者さんへの生活指導に説得力を持たせる。また、痛風患者の増加を受け、防衛医科大学校と連携したゲノム解析にも取り組んでいる。血清尿酸値上昇リスクを遺伝的に解析して、「ゲノム個別化医療」として痛風患者さんたちへ還元している。

2016年の熊本地震では、断水により透析が困難となる経験もした。八代市の施設へ、普段なら片道1時間の道のりをバスで片道4時間かけて患者さんを送り届け、職員が付き添った。その教訓から、嶋田病院の敷地内に地下水





ろ過システムを作った。日常的な透析にも活用すると同時に、災害時には近隣住民にも飲料水を提供できるよう備えている。また、熊本県透析施設協議会の会長として、県内の施設が横断的に助け合える体制の整備にも力を注ぐ。「普段やっていないことは、災害時にもできません。日頃の備えと顔の見える関係性が、いざというときに生きてくる」と話す。「次にどこかで何か自然災害が起こったときには、今度は熊本が全国を助ける側になるはずです」と、熊本県独自の訓練も行う。同時に、震災から10年経ったからこそ、当時の経験を風化させない取り組みも進めている。

理事長室には、先生が愛するアートやお気に入りのオブジェが並び、リラックスして執務できる空間となっている。趣味は自転車で、イタリアの名門ロードバイク



ホノルルセンチュリーライドにて

「ピナレロ ドグマ」を10年来の相棒に、ハワイで開催されるホノルルセンチュリーライド(160km)には10回も参加した。

また、ご子息が同じ慈恵医大に進んだため、定期的に東京に会いに行く。

「当時は部活動にも盛んに打ち込めたのですが、今の学生は履修内容がどんどん増えていて、相当忙しそうですね」と目を細める。

次世代の医師たちへ贈る言葉は、シンプルだ。「ねだるな、勝ち取れ、さすれば与えられん」。そして「相手のことを理解しようとする姿勢、力。それが時代を超えて大事なことだと思います」。生まれ育った熊本の地で、患者と地域とスタッフに向き合い続ける先生の言葉には、次の50年に向けた決意がうかがえた。



透析ベッド数79床ある系列の嘉島クリニックには、県内から多くの患者が通う。患者に寄り添うため、透析室はもちろん待合室も明るく開放的。

Close UP! まち散歩

嶋田病院がある熊本市を散策！

熊本県熊本市



熊本市は、加藤清正公が築いた城下町として発展し、九州の中核を担う政令指定都市です。阿蘇山の恵みである清らかな地下水が豊富な「水の町」で、黒毛和牛の「阿蘇あか牛」や県のPRキャラクター「くまモン」が全国的に知られています。豊かな緑と歴史的街並みが共存し、2016年の熊本地震から10年を経て、桜町再開発やくまもと歴史まちづくり計画など、復興に向けた未来志向の取り組みが進んでいます。

他にも嶋田先生
おすすめのお店を掲載！
Webからも
ご覧になれます



嶋田先生 おすすめ



銘菓「誉の陣太鼓」をソフトクリームに 陣太鼓ソフト

熊本銘菓として全国的に知られる、お菓子の香梅の「誉の陣太鼓」。最高級の北海道産大納言小豆を使用した秘伝の餡をなめらかな求肥で包み込んだみずみずしいおいしさで、世代を超えて愛され続けている。そんな陣太鼓を大胆に刻み、濃厚なミルクアイスに混ぜ込んだ隠れた逸品。「熊本にいらしたときは、ぜひ召し上がってください」と嶋田先生。



本物の味、上質な郷土料理 グルマン 熊本三年坂

熊本城から徒歩圏内の郷土料理店。阿蘇あか牛(3等級以上)、レア部位を用いた厚切り馬刺し、ブランド地鶏の天草大王の焼き鳥を高品質で提供する。あか牛と馬肉フランクを使ったランチのグルマン丼が名物で、地元民から観光客までもうならせる。



東海道の景勝を庭園に映す 水前寺成趣園

1632年に細川忠利公が造営した回遊式日本庭園。庭園の中心は阿蘇の伏流水が湧き出す池で、富士山を象徴する築山や東海道五十三次の景勝を模した風景が広がり、四季折々の自然が楽しめる。池北岸の出水神社には細川家歴代が祀られる。

フオトスポット としてもおすすめ！



伝統の粋、3000点の宝庫

熊本県伝統工芸館 ミュージアムショップ 工芸ショップ匠

県内の伝統工芸品約3000点を常設販売。金属工芸、刃物、陶磁器、木工、竹工、和紙、団扇など多岐にわたり、テーマを持った特設スペースも魅力的。熊本県伝統工芸館は2026年3月20日にリニューアルオープンし、入館者1万人を突破。日常に豊かさを添える工芸品を「観て触れて」体験できるスポット。



復旧の象徴、空中回廊へ 熊本城

日本三名城の一つ。2016年の熊本地震での被災により、まだ復旧工事中だが特別公開で被害のリアルを見学することができる。新設された空中回廊は、木造復元天守と石垣を高所から一望でき、ここでしか味わえない復興の軌跡を実感できる。



昼も夜も絶景なパノラマビュー 花岡山公園

熊本駅の北側に広がる標高133mの公園。市街地を見渡す展望台からは熊本城や市内を一望でき、夕景や夜景もおすすめ。歴史ある街並みと自然が融合した、ゆったりリフレッシュできる隠れスポット。桜の花見スポットとしても知られる。

第三病院から西部医療センターへ、地域とともに進化する病院としてリニューアル

東京都狛江市・調布市に隣接する立地で、長年にわたり地域医療を担ってきた東京慈恵会医科大学第三病院として親しまれた同院は、建物の老朽化と現代医療のニーズへの対応を

大学西部医療センター。

機に全面リニューアルを実施し、2026年1月に「西部医療センター」として生まれ変わりました。



東京慈恵会医科大学西部医療センター

55年の歴史を刷新、 地域に開かれた新病院の誕生

東京慈恵会医科大学の附属病院として約75年にわたり地域に寄り添ってきた同院。旧本館の竣工は1970年で、実に55年が経過していた。個室の絶対数の少なさ、1病棟に1か所しかないトイレ、そしてエレベーター台数の少なさ――。老朽化が積み重なった建物は、現代の急性期医療を担うには限界を迎えていた。こうした背景のもと、「附属第三病院」は全面改修・機能刷新を経て、2026年1月に名称も改め、「西部医療センター」として新たな歩みを始めた。新名称は、慈恵医大の本院が位置する港区から見て「東京の西部」に位置することに由来し、地域に開かれた病院としての意思表示も込められている。

新病院で大きく変わったのは施設の構造だけではない。従来の「診療科縦割り」から「センター制・ユニット制」への転換が図られ、消化器・肝臓内科、消化器外科、内視鏡部を束ねた「消化器センター」、脳神経内科・脳神経外科を隣接配置した神経系ユニットなど、関連診療科がひとつのセクションに集約された。患者が複数の診療科を渡り歩く必要が大幅に減り、利便性は飛躍的に向上している。外来はほぼ全診療科が2階のワンフロアに集約され、フロアをまたいだ上下移動が

ほとんど不要になった。

施設内に足を踏み入れると、まず視線を引くのがエントランス右手に設けられた「ガジュマルホール」だ。地域住民が気軽に立ち寄れるオープンな空間として設計されたこのホールは、生活習慣病の予防や未病対策をテーマにした講演会、狛江市・調布市との共同イベントなど、地域啓発活動の拠点として活用されている。病院の奥に位置するのではなく、「入口のすぐ横」という象徴的な場所に配置されたことに、地域との共存共栄を重視する病院の姿勢が表れている。

廊下の幅は従来と比較して大幅に拡張され、車椅子同士がすれ違うことさえ困難だった旧施設の課題が解消された。待合スペースも同様に広く確保されており、患者からは「ストレスなく待てるようになった」との声が寄せられている。エレベーターは旧本館の3〜4台から大幅に増設された。



1

地域医療の「核」として 高度な医療を提供

西部医療センターは東京都から「地域医療支援病院」の指定を受けており、近隣の開業医や中小病院から患者を受け入れ、状態が落ち着いたら地域の医療機関へ戻す「紹介・逆紹介」の機能を担う。その連携を円滑にするため、病院入口すぐ左手には「患者支援・医療連携センター」が広いスペースを確保して設置されており、退院時カンファレンスへの地域医師の参加など、顔の見える連携が進んでいる。

救急体制も大きく強化された。これまでの体制に加えて、経験豊富なベテラン救急専門医2名を新たに迎え入れ、合計3名体制へと診療体制を大幅に拡充している。1階には救急室・初診外来・小児科をまとめた「プライマリーケアユニット」を集約し、高齢者救急を中心とした二次救急のニーズに的確に応えられる体制を整えた。

がん診療においても、手術・化学療法・放射線治療の三本柱を軸に、積極的な体制強化が図られた。



2



3

また、ロボット支援手術「ダビンチ」の導入に際しては、専門医を配置した。骨髄移植が可能な血液専門施設の整備や最新の放射線治療装置の導入なども進んでいる。

そして、特筆すべきは地域初の取り組みとなった「緩和ケア病棟」の新設だ。約20年前から院内に緩和ケアチームが存在していたものの、専用病棟の設置は今回が初めて。東京都内でも大学病院が緩和ケア病棟を持つ例は少なく、開棟直後から高い期待が寄せられているという。在宅医療機関やケアホスピスとの連携を視野に入れながら、患者が「その人らしく過ごせる場」を地域の中に根付かせようとする取り組みは、地域医療支援病院としての理念を体現するものだといえるだろう。

〈Photos〉
1: 地域に開かれた「ガジュマルホール」
2: 術者をサポートする「ダビンチ」
3: 心穏やかに過ごせる緩和ケア病棟の個室



東京慈恵会医科大学西部医療センター
院長 平本 淳

20年後も必要とされる病院であり続けるために

新しい病院を作るにあたって、私がずっと大切にしてきたのは「地域の中で完結する医療」という考え方です。救急から手術、がん治療、そして緩和ケアまで、患者さんが住み慣れた地域を離れずに、一貫したケアを受けられる体制を整えることが、今回のリニューアルに込めた思いです。

緩和ケア病棟は、20年以上前から先輩たちが必要性を訴え続けてきた悲願でもあります。当院が地域で初めての取り組みとして実現できたことを、誇りに思っています。地域医療支援・がん診療・人材育成という三つの柱を軸に、これからも地域の皆さんの期待に応え続けていきたいと思っています。近隣の医師や行政との連携をさらに深め、20年後も必要とされる病院であり続けることが、私たちの目標です。



東京慈恵会医科大学 西部医療センター

麻酔部 医師 蓮沼 潤さん(2020年入局)

■主な業務内容は？

最近「ロボット麻酔」(自動麻酔システム)の運用にも携わっています。患者さんのデータをもとにロボットが麻酔薬の投与量を調整し、術中の維持をサポートしてくれるシステムで、現時点では国内の導入施設はまだ十数施設ほど。

■なぜ麻酔科医の道へ？

実習や研修を経る中で、特定の臓器だけでなく患者さんの全身状態を診られること、自分が選んだ薬の効果が術中にすぐ返ってくる麻酔科の仕事が自分に向いていると感じたんです。



■休日の過ごし方は？

映画や美術館巡りで頭を切り替えています。仕事とはまったく別の刺激が、いい気分転換になっています。

■仕事のやりがい？

「安全であって当たり前」の世界ではありますが、自分が思い描いた通りの麻酔管理ができ、患者さんが痛みなくスムーズに覚醒できたとき、大きな達成感を覚えます。

仕事のミカタ！

「職場の仲間」手術と手術の合間、スタッフルームで仲間と交わすたわいのない話が、何よりのストレス解消です。困ったことや反省もサラッとシェアできる風通しのよさが、今の自分を支えてくれています。



医療現場をさまざまな技術や立場で支えるプロフェSSIONALたち。手術室で患者さんの全身を守る麻酔科医、病院のチームを縁の下から支える薬剤師。仕事への想い、将来の展望からプライベートまで、お話を伺いました。

その他エピソードはWebで公開中！



Medical Works

～チーム医療の担い手たち～
Vol.001

東京慈恵会医科大学 西部医療センター

薬剤部 薬剤師 行川 洋平さん(2008年入局)

■主な業務内容は？

現在は当センターの購入管理担当主任を務めつつ、1日の大半は抗がん剤の調製(ミキシング)を中心とした注射薬の調剤に当たっています。

■なぜ薬剤師の道へ？

化学が好きで応用化学を考えていたのが、気づいたら薬学志望になっていました(笑)。後悔はまったくないですよ。18年続けて、そう言えるのが答えです。



■休日の過ごし方は？

庭や実家の畑で家庭菜園をしています。今年はレモンやブルーベリーなど果物も増やしました。ドライブも好きで、妻や互いの両親と旅行に出かけるのが大切な時間です。

■今後の展望は？

AIや機械化の進展で、薬剤師の役割は物の管理から「対人」「チーム内でのタスクシェア」へと移行する転換期を迎えます。現場スタッフがうまくシフトできる環境を整えることが、今の自分に課せられた役割だと感じています。

仕事のミカタ！

「チョコレート菓子」もう少し頑張りたいとき、手に取るのがチョコレート菓子。後輩とのコミュニケーションにも役立ちますよ。



A Moment with Books

— 忙しい日々、気づきとやすらぎを —

日々のあわただしさの中でも、ホッとひと息つける「本」の時間。仕事に役立つ知恵から、心を整える物語まで。とっておきの一冊をご紹介します。

『ヴァイタル・サイン』

南 杏子／小学館文庫

「これ、自分のことだ」——。現役医師が描く、命の現場の圧倒的なリアリティ。

生と死の境界で揺れる人々の、綺麗事だけではない葛藤を、現役医師がリアルに描きます。読み進めるほど「これは自分のことだ」と心臓が跳ねます。忙しさを麻痺した心が、そっとほどこけていく時間を味わってほしいです。



『医師1年目になる君たちへ 誰も教えてくれない些細で、とても大切なこと』

山本 健人／羊土社

リアルな現場を生き抜くための必読書。「一生モノ」の知恵を手に入れよう。

研修医が直面する「誰も教えてくれない必須知識」を凝縮した一冊。紹介状の書き方からSNS、キャリアまで、医療現場で誠実に働くための指針が詰まっています。読み進めるほど自分の原点を思い出させてくれます。



『心をととのえるスノーピー』

チャールズ・M・シュルツ 著

訳：谷川 俊太郎、監修：枅野 俊明／光文社

つい自分を後回しにしてしまうあなたへ。張り詰めた心に静かな余白をくれる、禅の教え。

スノーピーたちの何気ない一言と、深く静かな「禅」の言葉。その意外なまでの調和に、強張っていた心がふっと軽くなるはず。完璧じゃなくいい、今のままでいい。自分を慈しむ、温かな「ととのう」時間を届けてくれます。

旬食だより

Shun-Shoku Dayori vol.001

旬の食材は美味しさと栄養価が高まる時期。新連載「旬食だより」では、その魅力を季節ごとに紹介します。初回は、初夏に旨みが増すアジを取り上げます。



管理栄養士
株式会社ORANGE kitchen 代表取締役

若子 みな美

神奈川県リハビリテーション病院に従事後、慶應義塾大学大学院にて公衆衛生学修士号(MPH)取得。食品メーカー等に健康的なレシピ提案等を行う。現在は、行動変容プログラム「しおみる」や「やせテク」などの開発に携わる。



アジ 鰺 Caranginae

スズキ目アジ科

<アジ1尾(可食部70gあたり)の成分表>

エネルギー 78kcal、炭水化物 2.3g、たんぱく質 11.8g、脂質 2.5g、EPA 210mg、DHA 399mg、ビタミンD 6.2μg

ポイント

長崎県を中心とした九州沿岸をはじめ、日本各地の沿岸域で水揚げされます。旬は春から初夏で、特に5～7月は脂がのり旨みが増す時期です。名前の由来は「味が良い」からとも言われ、刺身や塩焼き、南蛮漬けなど多彩な料理で親しまれています。

旬のアジは栄養価抜群

初夏に旬を迎えるアジは、脂がほどよくのり、旨みと栄養価が最も高まります。青魚の中でもクセが少なく、普段あまり魚を食べない方でも取り入れやすいのが魅力。旬のアジは刺身でも臭みが出にくく、薬味や夏野菜と合わせるとさらに食べやすくなります。魚料理のハードルが高いと感じる方にも、扱いやすい魚のひとつです。

アジに多い栄養素 EPA&DHA

アジには、ヒトの体内で十分に作ることができないn-3系不飽和脂肪酸(EPA・DHA)が豊富に含まれています。EPAは炎症反応を抑え、血液を固まりにくくする働きがあり、血流改善や動脈硬化の進行予防にも関わる成分です。また、中性脂肪の低減にも寄与するとされています。一方DHAは、胎児の脳や目の発達に重要な栄養素として知られています。どちらも、まずは魚などの食品から取り入れるのがおすすめで、旬のアジはその絶好のタイミングです。

美味しいアジの見分け方・食べ方

見分け方① 目の輝き

アジの目が澄んでいるものを選びましょう。濁りがあるものは鮮度が落ちているサインです。



見分け方② 鰓(エラ)の色

エラが鮮やかな赤色のものは新鮮です。くすんだ赤や茶色っぽい色は、時間が経っている証拠になります。



見分け方③ 身のハリとツヤ

体の模様がくっきり見え、表面にツヤがあり、ふっくらとハリのあるものが良質です。切り身の場合は、ドリップ(液体)が出ていないものを選びましょう。



おすすめ料理 刺身

旬のアジは刺身で食べると旨みが最も引き立ちます。新玉ねぎのスライスや、しょうが・大葉・みょうが・小ねぎなどの薬味を添えると、さっぱりと食べやすくなり、青魚が苦手な方にもおすすめです。ポン酢やしょうゆに少量のごま油を加えると、風味が変わって飽きずに楽しめます。

そのほか、簡単にできるアレンジレシピをWeb限定で紹介中!



Faces of JMS

声に寄り添う、わたしたち

寄り添う気持ちを大切に、日々 JMS で働くスタッフの素顔や想いをお届けします。
わたしたちを身近に感じていただけたら嬉しいです。

社員の誇りと確かな品質を支える存在でありたい



千代田工場
工場長

吉田 かおりさん

1990年にJMSに入社し、研究職からのスタートでした。その後、工場に異動して品質管理に携わる中で、日々生産性の向上をタイムリーに実現する現場での仕事にとってもやりがいを感じ、天職に巡り会えたような気がしたのを覚えています。幸いにも、以来ずっと工場勤務を継続し、2019年に千代田工場の工場長に就任しました。弊社初の女性工場長ということで、プレッシャーもありましたが、「やるしかない!」という気持ちが大きかったですね。こうして新たな道ができたことで、多くの女性社員が「自分も挑戦してみたい」と思うきっかけになればとても嬉しいです。工場長として心がけているのは、メンバーの声をじっくり聞くこと。立場上、以前ほどフランクに接してもらえないのは少し寂しいのですが(笑)、いろいろな相談を受ける機会が多くなりました。「品質は工程で作り返される」という言葉があるように、品質を左右するのは、工程に関わる一人ひとりの意識と行動の積み重ねです。だからこそ、現場の声を聞き、困りごとを拾い、メンバーが自分の仕事に誇りを持てる環境を整える。それも私の重要な役割です。これからも人の声に耳を傾けながら、JMSが確かな品質のもと医療業界に貢献できるよう、ものづくりの現場を支えていきたいと思っています。



そんな私は山あいの地域で家族と暮らし、農作業やご近所付き合いが心のリセットになっています。帰宅すると、愛犬の“むぎ”が出迎えてくれるのも毎日の癒しです。

原体験が導いた、現場に応えるためのものづくり

幼い頃は病気がちで、医療に助けられることが多い子どもでした。そのせいか、ずっと臨床工学技士になりたいと思っていたのですが、作る側ならより多くの患者さんに貢献できると考え、今の道へ。入社後は人工心肺関連の開発に携わり、試作が形になり、認可を得て世に出ていく。その一つひとつが開発者としての喜びでした。一方で、品質異常対応を任されたときには、医療現場の厳しさを痛感しました。現場で叱責を受けながら、改めて医療従事者の方々の想いを肌で感じた経験は、私の仕事観を形成した大きな出来事です。今年の4月に、デバイス開発室の室長に就任しました。想定外の抜擢でしたが、チームをまとめる上で大切にしているのは、徹底したコミュニケーションです。自分だけで判断せず、経験豊富なメンバーの知見にも頼りながら、より良い製品を生み出すことができれば。日本の医療業界は今、大きな変革期にあります。だからこそ情報収集を怠らず、必要なものをタイムリーに出し続けることが重要です。ものづくりへの情熱と、率直な意見をくださる医療従事者の方々への敬意。その両方を忘れずに、これからも開発の最前線に立ち続けたいと思っています。

仕事以外では、2人の息子の野球とサッカーに付き合う週末が楽しみです。気づけば近所の子どもたちと一緒に、公園で走り回っていることも(笑)。平日は頭を使い、週末は体を動かす。そのバランスが、仕事への活力になっています。



広島本社
治療デバイス部
デバイス開発室 室長
たわもと
埴本 知樹さん